

平成 27 年 10 月 19 日

企業年金連合会 第4回スチュワードシップ研究会で古川千春が講演

平成 27 年 10 月 16 日に開催された企業年金連合会 第4回スチュワードシップ研究会で古川千春が講師を務めました。内容は以下の通りです。

<講演のポイント>

資産運用の歴史について日米英を比較し、何故、我が国の資産運用は定量的運用になったかを解説した上で、スチュワードシップ施行後、定性的運用への回帰が見られることになるかも知れないことを示唆。企業年金の法令上の仕組みを鑑みると企業の経営方針(CSR)と基金の「運用の基本方針」の刷り合わせが必要なのかも知れないとし、その為にはアセットオーナーが一步踏み込んだ「運用の基本方針」の策定が必要な時代に入った、とした。演題の項目は以下の通り。

- ・運用の歴史
- ・日英両コードの狙い
- ・UNGC10について
- ・企業年金の受託者責任とスチュワードシップ・コードの関係
- ・AOとしての企業年金基金への期待と新たな使命 等

(資料がご入り用の方は弊社までご連絡ください)